

1 日 時：平成 30 年 10 月 15 日（月）15 時～16 時 30 分

2 会 場：三国丘高等学校 校長室

3 出席者：

[委員] 田中満公子委員、坂部弘重委員、西端律子委員、松原英夫委員

[学校側] 小嶋信男校長、高崎克司教頭、三木敬之事務部長、
田中和代首席、恩智理指導教諭、駒井泰之教諭、北出眞理教諭
吉田まちの教諭、稲木悠一教諭、崎谷恵美教諭、中村紀子教諭

4 次第

① 校長挨拶

② 平成 30 年度学校経営計画の進捗状況について（報告）

（委員）新大学入試について、三国丘の取り組みはどのようなものか？

（学校）（1）新入試については、依然として不確定な事項はあるものの、三国丘として 3 年間を見通した進路プログラムを考案している。

（2）英語教育に関しては、GTEC の受験等で対応している。入試ありきの教科指導ではなく、社会に出てからも使える実用的な英語教育をめざしている。

試行錯誤状態ではあるが、72 期生より 4 技能型の英語授業を 2 単位確保している。2020 年からの新テストもリスニング問題の比重が高くなることが予想される為、4 技能型の授業は意味があると考えられる。

（委員）新学習指導要領について、三国丘の取り組みはどのようなものか？

（学校）大阪府としての教育課程基準を見て編成するつもりであるが、基準がまだ発表されていない為、詳細までは言えない。総合的な探究の時間や、道德教育推進者の設定といったようなこれまでに無い取り組みが挙げられているが、三国丘がこれまでやってきたことにつながる内容であるので特段問題は無いと思われる。

（委員）GLHS10 校は特に探究活動など既に特色を出しながら取り組んでいるので、さらに三国丘としてこういう特色を付け加えていきたいという考えはあるか？

（学校）10 月 11 日に「育てたい生徒像」というテーマを中心に教員間でディスカッションを行った。「どういう力をつけたいのか」という共通認識を持っていただいて、来年度の教育課程編成につなげていきたいと考えている。また、各教員の思いや提案を経営計画に取り入れていきたいと考えている。

（委員）その研修で出てきた「育てたい生徒像」のベスト 3 を教えて欲しい。

（学校）さまざまなテーマで話し合ってもらった為、絞れないが、経営計画に関わる内容で話し合ってもらった。「グローバルリーダーを育成する」や「進路実現に向けて」といった項目によって様々な意見が出た。

（委員）そのような意見を集約して動かすような組織はあるのか。

（学校）授業で「グローバルリーダーをどう育成するか」については、各教科でシラバス等に記述を加えてもらい、毎学期振り返ってもらえればと考えている。

③ 各学年の状況について

（委員）スマホの講習会とは誰がどのような内容で行ったのか。

（学校）情報の教科担当がスマホ使用におけるモラルについて講習を行った。

(委員) 携帯やスマホの使用については三国丘ではどのようなルールになっているか

(学校) 特に明文化はしていない。教育においてそれが意義のあるものであれば使用を許可している。

④ 進路関係の状況について

とくに質疑なし

⑤ SGH の取り組みについて

(委員) 海外研修に参加した生徒に取ったアンケートについて、「あまり良くなかった」や「良くなかった」という項目を選んでいる生徒がいるが、具体的な内容は聞いているか。

(学校) 大学寮で生活するということに生徒が慣れていなかったことと、食事がファストフードのようなものが続いたことなどが原因と考えられる。フィリピンの方では、学生食堂で昼食をとった際に、味付けが合わない生徒がいたことが考えられる。

(委員) 障がい者の方が働く施設について「良くなかった」という意見が出たのはなぜか。

(学校) 施設の面で、空調が効いておらず暑かったことと、外でしていた作業の臭いが生徒には辛かったのではないかと思われる。

(委員) SGH の研修に参加しているのであるから、その国の食事等、文化については事前の知識を持っておくべきである。日本の評価尺度で考えさせないようにするのも大切ではないか。

⑥ SSH の取り組みについて

とくに質疑なし

⑦ 平成 31 年度使用教科書選定について

とくに質疑なし

⑧ その他

(委員) 三国丘はこういう風に生徒を育てたいというポリシーがしっかりしている。「情報」が新しい入試で必要になってくるが、それに対しての三国丘の対応をまた教えていただきたい。

(委員) SGH、SSH の取り組みが素晴らしい。生徒たちは海外で様々な刺激を受けている。三国丘は文武両道ができている。今後もこれを継続していただきたい。

(委員) 高大連携といった大学との交流は非常に良く分かったが、高校生同士の交流はどうか？

(学校) リーハイ大学は米国総領事館の協力のもと行ったため、高校との交流は難しい。フィリピンのエンドラン大学においてもスケジュールの都合上難しいが、エンドラン大学に高校部ができたので、今後は検討の余地はある。

(委員) 前回の協議会で出た「MSM」と「MTM」について指標などはあるのか？

※「MSM」は、Mikunigaoka Studying Method の略

※「MTM」は、Mikunigaoka Teaching Mind の略

(学校) MTM については、学校教育自己診断等でチェックしていく。MSM については、以前に生徒たちに自習時間スケジュールについてアンケート等をとった結果、十分な学習ができているという結果が出た。ただ、生徒たちが勉強で非常に忙しく疲れた様子も見えるので、各教科や教員間で課題の量は適切か等の情報共有が必要だと思われる。